

令和7年度 加美南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 加美南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	113	51	42	6.1	9.4	学校	487
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	107	67.2	52.3	50.6	52.1	55.1	4.5	3.1	9.3	5.4	5.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	103	69.2	52.1	58.4	50.9	55.9	4.6	3.7	8.9	3.4	5.2
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	93	70.8	61.1	62.9	66.9	66.9	4.6	1.1	5.0	1.9	2.4
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	66.2	66.5	9.1	3.0	7.6	3.6	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	108	108.1	103.3	139.2	93.1
10月7日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	108	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	25.78	28.46	39.94	49.06	90.43		8.02	186.20	21.28	42.22
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.95	23.23	44.45	46.49	58.62		8.99	165.73	11.46	47.18
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 加美南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

平均正答率は51%で大阪市平均より1ポイント下回った。中でも、A話すこと・聞くこと、D読むことに関しては、ほぼ大阪市と変わらなかったが、言葉の特徴や使い方に関しては、大阪市より4.6ポイント下回った。

<数学>

平均正答率は42%で大阪市平均より4ポイント下回った。しかし、平均無解答率は9.4%で大阪市平均より1.8ポイント低かったため、あきらめずに解く姿勢は大阪市の平均と比べるとあるように思う。

<理科>

平均IRTスコアは487で大阪市の489より少し低いが、本校のIRTスコアの1, 2の割合は大阪市、全国より低く、3の割合が高いことから、日々の基礎定着のための小テストの取り組みで、理科が苦手な層の底上げができておりと分析できる。

【今後に向けて】

<国語>

日々の授業の中で、グループワークを多く取り入れていることもあり、話したり、読んだりする力についてはついてきていると考えられる。今後は、敬語の使い方など、言葉の使用に着目した取り組みが必要だと考える。

<数学>

授業に関する独自のアンケートでは、授業について「わかりやすい」と「まあわかりやすい」を合わせると86%の回答を得られている。その理解していることを定着していく方策を講じていく必要がある。

<理科>

日々の小テストにより学力の底上げはできているが、本校のIRTスコアの4, 5の割合は大阪市、全国より低く、正答率の高い層が少ないので、今後はより思考力を測る問題の正答率を上げる取り組みを入れていく必要がある。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果と課題】

<国語>

平均点は大阪府と比較して、3.0ポイント高かった。本校は60～79ポイントの層が多く、24ポイント以下の生徒が少なくなっている。これは、漢字などの覚えるべき内容の繰り返し学習ができてきている結果だと考える。

<社会>

平均点は大阪府と比較して、1.1ポイント上回った。本校では30～39点の生徒が多く、依然苦手科目とする生徒の多さがうかがえる。一昨年度・昨年度との比較では、繰り返し学習の成果が出たといえる。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、3.3ポイント下回っている。数学に関しては苦手意識を持っている生徒が多く、小学生の頃からの積み重ねの教科であるので、問題を正解に導く力を伸ばすのが難しい。

<理科>

平均点は大阪府と比較して、6.1ポイント高かった。本校は85～89と45～55ポイントの層が多く、19ポイント以下の生徒がほとんどいないため、大阪府平均よりも本校の平均のほうが高くなっている。低ポイント層が少なく中間層が多いのは、授業で行っている小テストによる基礎知識の定着の成果であると考えられる。

<英語>

平均点は大阪府と比較して、1.9ポイント高かった。本校20点台と40点台の生徒の割合が府平均より多い。全体的に選択肢の問題の正答率が高く、基礎的な知識の定着は感じられるが、英語で表現したり、文章の要点や概要を把握する力を養っていく必要がある。

【今後に向けて】

<国語>

ほとんどの設問で大阪府の平均程度点数が取れているが、思考判断表現、特に適した内容への言葉の書き換えが平均を下回っていたので、授業の中で、自ら考え、内容の理解ができるような取り組みを展開するようにしていく。

<社会>

地理の世界・日本、歴史の前・後期の全範囲の理解を深められる復習について指導する。本校の無回答率の低さから、意欲的に問題に取り組む姿勢が見られた。今後も、生徒が前向きに学習に取り組む授業を進めていく。

<数学>

幸いにして、授業に関する独自のアンケートでは、授業について「わかりやすい」と「まあわかりやすい」を合わせると86%の回答を得られているので、そのことを生かしていきたい。

<理科>

4単元のどれについても大阪府平均を越えているが、「粒子」の単元の得点率が平均に近く、化学分野の学習で指導の改善によりまだ伸びる余地があると考えられる。また、本校の無回答率は大阪府に比べて低く、意欲的に問題に取り組む姿勢が見られた。今後も、前向きに学習に取り組める授業を展開するよう努力していく。

<英語>

選択肢の問題では正答率が高いが、英文の内容の要点を把握する問題、記述式の問題の誤答、無回答率が目立った。特に『書く』問題に課題を感じるため、様々な場面やトピックで状況を説明したり、自分の考えを述べたりすることができるようにライティング指導に注力していく。

令和7年度 加美南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(2年生)

【成果と課題】

<国語>

平均点は大阪府と比較して、4.7ポイント上回っていた。本校では75～79ポイントの層が最も多く、次いで85～89ポイントの層が多かった。漢字や文章の読み方が定着していることを確認することができた。

<社会>

平均点は大阪府と比較して、7.8ポイント上回っていた。地理的分野・歴史的分野の知識・技能、思考・判断表現の分野の問題すべての観点で大阪府の平均点を上回っていた。授業始めに授業内容の復習、授業終わりに振り返りシートを活用して文章で授業内容をまとめる活動を取り入れ、力がついた部分もあると考える。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、3.4ポイント上回っていた。数と式、図形の単元は大阪府平均を上回っていた。授業内で計算問題の反復練習、図形問題の定着を行ったことが結果と考えられる。

<理科>

平均点は大阪府と比較して、4.2ポイント上回っていた。化学、生物、地学のすべての問題において、知識と思考、両方の観点で大阪府の平均を上回っていた。授業で行う小テストで知識の定着を行い、実験を多く取り入れることで思考力の向上につながったと考える。

<英語>

平均点は大阪府と比較して、4.5ポイント上回っていた。書くこと、聞くことに関して比較的正答率が良かった。

【今後に向けて】

<国語>

結果を見ると、記述式の問題形式の正答率が低い傾向にあったため、その能力を補うことも視野に入れて授業を行っていく。

<社会>

各設問の正答率を見ると、地理的分野において複数の資料から情報を読み取る問題や百分率(%)や割合が関係する問題、農産物の産地を答える問題が大阪府平均を少し下回っていた。授業においても、資料を読み取る活動を増やし、力をつけさせたい。

<数学>

関数の単元は大阪府平均を少し下回っていた。第3学年では再び関数の単元学習があるので、式を利用して問題を解くことやグラフの表していることを理解できるよう、授業の中で繰り返し復習し、力をつけさせたい。

<理科>

生物分野においては大阪府平均からの上回りが大きい、化学分野においては大阪府平均を上回っているものの近いポイントである。計算問題では正答率が下がるので、演習問題を繰り返し定着させたい。また、思考力では実験の予想をしたり、結果からわかることを考えさせる時間をもちたい。

<英語>

今後はプレゼンテーションなどを取り入れて発表する能力などの向上に努めたい。

○中学生チャレンジテスト・plus(1年生)

【成果と課題】

<国語>

平均点は大阪府と比較して、7.7ポイント上回っていた。読むことと我が国の言語文化に関する事項に関する得点が高く、授業での小テストが得点に結びついている。

<社会>

平均点は大阪市と比較して、2.8ポイント上回っていた。地理的分野・歴史的分野の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の分野の問題すべての観点で大阪市の平均点を上回っていた。授業始めの都道府県・世界の国・歴史の用語の復習、授業中の導入に視聴覚教材を取り入れ、理解力がついたと考える。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、6.2ポイント上回っていた。作図を含む図形の単元は身につけている部分は多いが、文章から式を立てることやグラフから読み取ること、また記述形式で説明する問題が苦手である。

<理科>

平均点は大阪市と比較して、3.9ポイント上回っていた。傾向としては生物的分野での得点は高いが、物理的分野の得点は低かった。

<英語>

平均点は大阪府と比較して、1.7ポイント上回っていた。本校では、50～54ポイントの層が最も多く、次いで95～100ポイントの層が多かった。特に、「聞くこと」に関する力が身につけていることがうかがえる結果となった。

【今後に向けて】

<国語>

話すこと・聞くことや言葉の特徴や使い方に関する事項の分野を伸ばすため、文章の読解だけでなく、自分の考えを相手に伝えるためにはどのような工夫をすればよいかなど、考えて実践する機会を増やしていきたい。

<社会>

カテゴリー別正答率を見て比較すると、「活用」より「基礎」、「短答・記述」より「選択」が少し下回っていた。授業においても、選択式の基本問題の演習を増やして力をつけさせたい。

<数学>

計算をこなしていくだけでなく、式の成り立ち方やグラフの意味も理解したうえで授業を進めていく。また文章問題もあきらめずに解いていき、記述の問題にも対応できる力を養って行く必要がある。

<理科>

何事も好きであることはやる気にもつながるので、理科や自然科学の楽しさに気付けるような授業展開をしていきたい。また本校生徒が苦手とする数量的な扱いも練習も増やしていきたい。

<英語>

知識・技能に関する問題においてのみ平均点を下回る結果となったため、徹底した基礎の定着を図りたい。また、記述の問題において無回答率を下げるために、ライティング指導に力を入れていきたい。

令和7年度 加美南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果と課題】

本学年は、1年生の時に速読、2年生では英検のリスニングを帯活動に取り入れていたので、昨年度と比較し、リーディング、リスニングのスコアが上昇した。しかし、今年度も4技能すべて大阪市の平均スコアを下回る結果となった。

【今後に向けて】

帯活動で継続指導することで、スコアを上げることができた。一方で、短時間の指導ではその伸び幅に限界があるという結果も得られた。4技能すべてのスコアが大阪市の平均を下回っており、バランスよく4技能を育む授業づくりが必要である。今後はより良い方法を模索しながら授業デザインに努める。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【成果と課題】

授業内容や教材を工夫し、運動量を多く確保できている。その結果、全国体力・運動能力調査は、男子：上体起こし・20mシャトルラン・ハンドボール投げ・体力合計点、女子：上体起こし・反復横跳び・20mシャトルランが全国平均を上回った。

校内調査(12月)における生徒回答の数値目標で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合が55.2%で、60%以上は達成できていない。1学期は52.4%だったので、2.8%は向上した。

【今後に向けて】

引き続き、授業内容や教材を工夫し、運動量を多く確保する。

「楽しさ」「達成感」「習慣化」をキーワードにするために、「ハードルを下げスタートする。」「達成感を感じられるようにする。」「習慣化しやすい予習・復習を明示する。」「仲間との交流を増やす。」「完璧を目指しすぎない。」などの点に留意して授業進行・生徒指導していきたい。

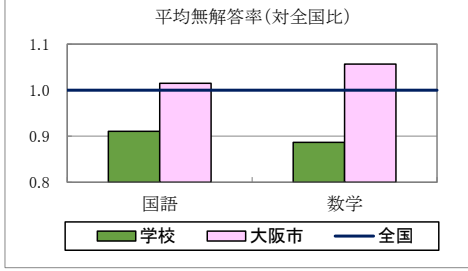
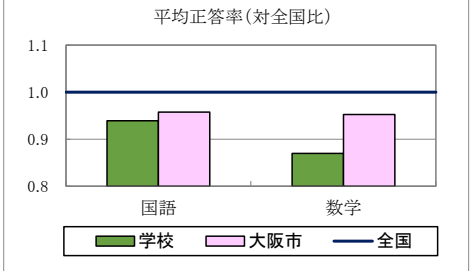
令和7年度 加美南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	51	42
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.1	9.4
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

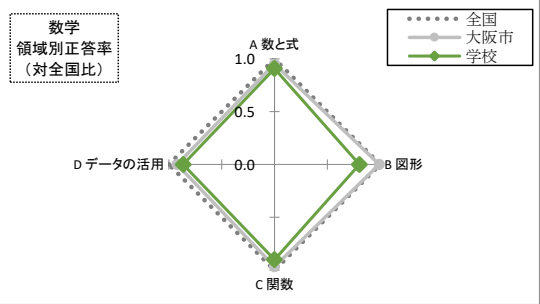
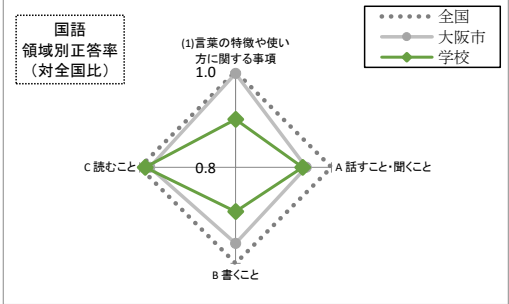
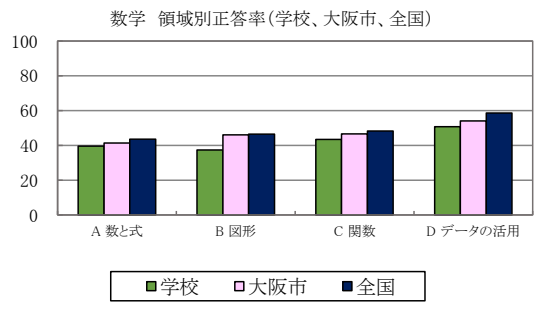
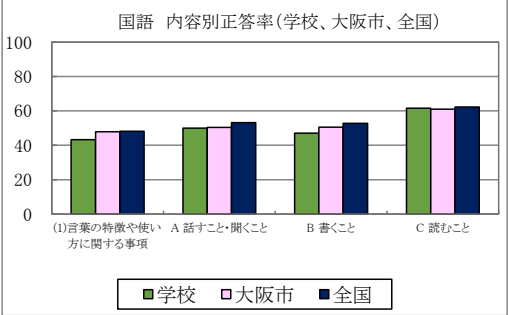


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	43.3	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	50.0	50.4	53.2
B 書くこと	5	47.1	50.6	52.8
C 読むこと	3	61.6	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	39.5	41.4	43.5
B 図形	4	37.4	46.1	46.5
C 関数	3	43.4	46.6	48.2
D データの活用	3	50.7	54.0	58.6

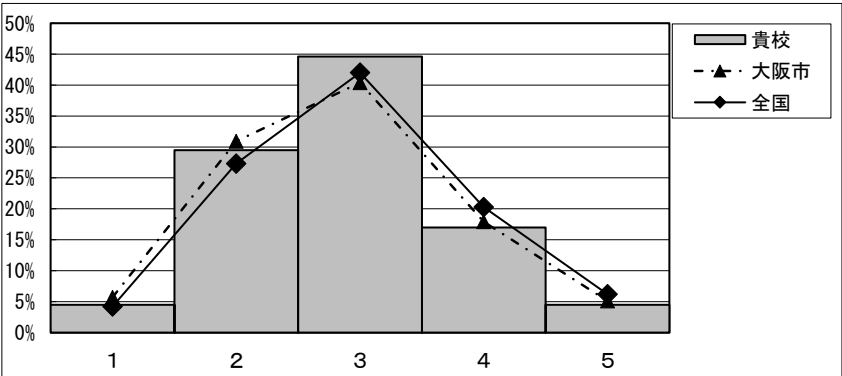
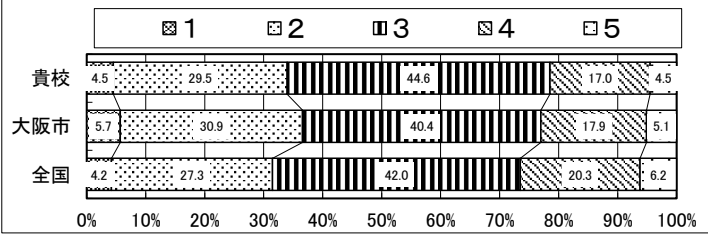


令和7年度 加美南中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	487
大阪市	489
全国	503



令和7年度 加美南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

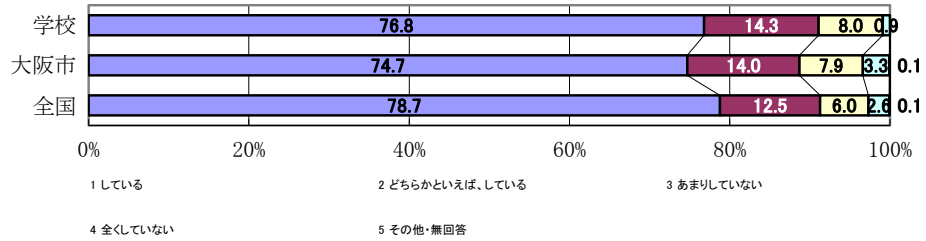
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

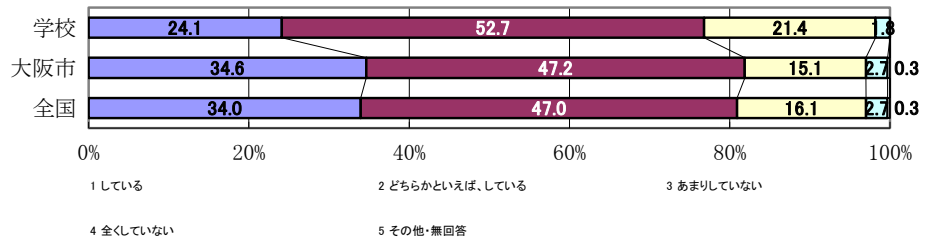
1

朝食を毎日食べていますか



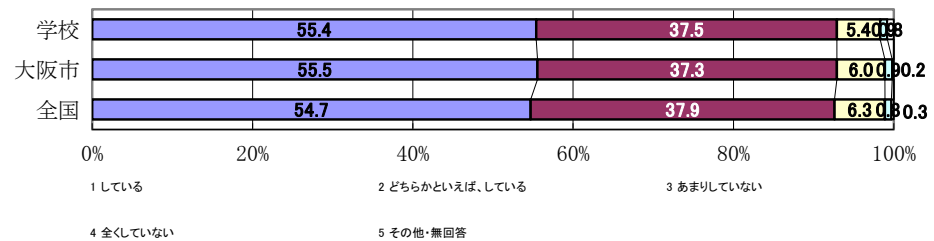
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



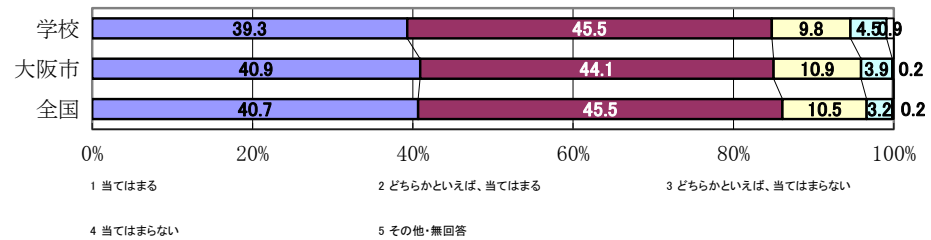
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



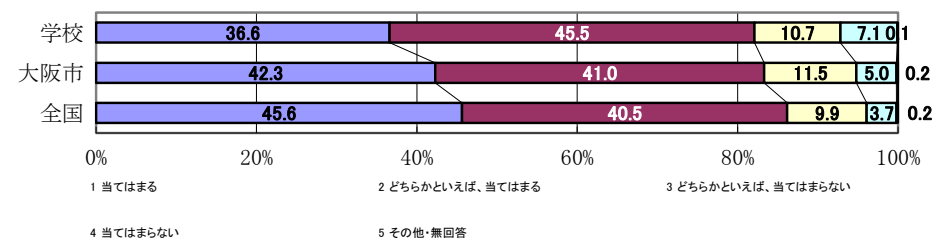
5

自分には、よいところがあると思いますか



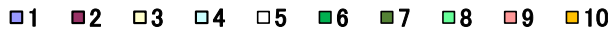
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



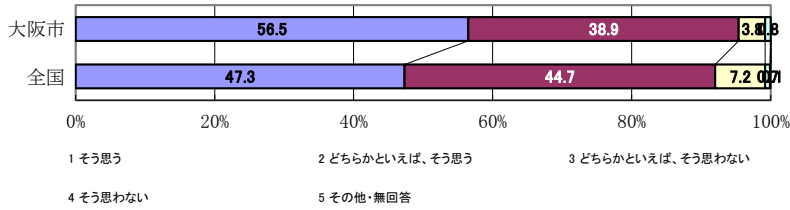
令和7年度 加美南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



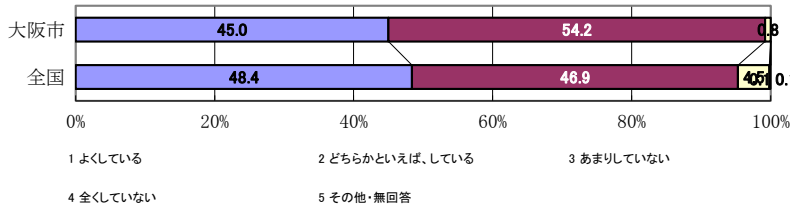
質問番号
質問事項
8
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いたと思いますか

学校 「そう思う」を選択



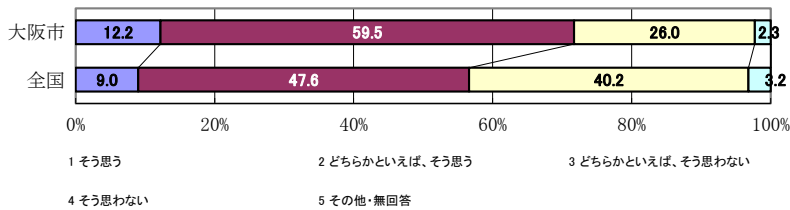
18
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



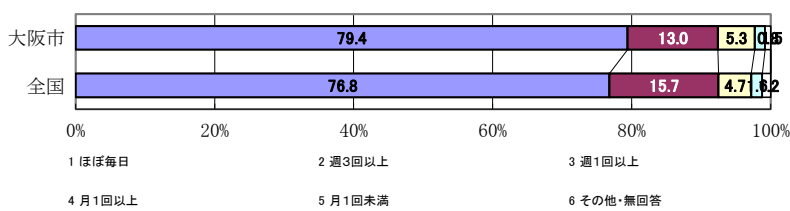
29
調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



55
前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



58
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

